

御池通界わいの今と昔

今のようす

「今のようす」は平成17年7月20日に開催した御池通マシソン・ワークショップの成果をまとめたもので、参加者の方々が話し合われたことをもとに作成しました。

凡 例

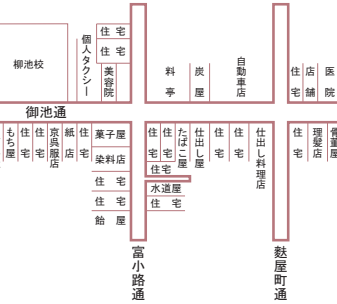
- 今 あるもの
- 昔の面影を残すもの、地域の名所など
 - 史跡など
 - 歴史的意匠建造物、国登録文化財など
 - 神社など
 - 警察署・交番
 - 消防署
 - 学校
 - トイレ
 - 郵便局
- 昔 あったもの
- 昔あったお店や建物



昔のようす



今から40年前の市役所周辺(写真提供)中島弘基氏



御池通復元図(戦前)

※模式図のため実際のスケールとは異なります。

「今生きている私たちが覚えていた身近な地域の歴史を残したい」そんな想いを話し合い、かつてこの地域に住んでおられた方やご兄弟、同級生などにもお話を聞いて当時の様子を復元しました。

柳池校開校の際、当時の鳩居堂の主人が尽力されました。

※1)写真提供「目で見る京都の100年」(郷土出版社)

コラム 柳池校

明治元(1868)年閏4月京都府が設置され、明治2年には町組改正が行われ、上京33、下京32の65番組に分ち、番組毎に小学校が設立されました。上京27番組では明治元年9月仮学舎で授業が開始され、明治2年5月21日富小路御池角守山町に上京第二十七番組小学校として日本最初の小学校授業が行われました。(「フィールド・ミュージアム京都」より)

みそそぎ川のホタル

みそそぎ川にホタルを復活させるためにがんばっている地元の方々がいます。昭和20年頃、みそそぎ川にはホタルがたくさんいました。川の改修などにより、近年は少なくなっていますが、地元の方々の働きかけのおかげで所々で見ることが出来ます。皆さんがもっと自然や環境のことを考え、たくさんホタルが見られるようになってほしいと願っています。

御池通懐かしの風景写真館



史 跡

御池通周辺には、歴史遺産が多数あります。ここでは、代表的なものを取り上げてご紹介します。

資料提供：京都市歴史資料館

日本最初盲啞院開学地(にほんさいしやうもうがいんがひらくのち) No.1



明治6年、上京区第十九組区長が隣家の陣屋姉弟の教育を待賢小学校に依頼し、区内有志の賛助を得て校内に教場を開いたことをきっかけに、明治11年5月、日本最初の盲啞院がこの地に開校されました。

足利尊氏邸・持待寺跡(あしかがたかうじでいとうじじあと) No.2



足利尊氏の三条坊門第があり、尊氏はこの邸で政務を執り、没しました。後に持待寺という寺院に改められ、足利氏の菩提寺として崇敬を集めました。応仁・文明の乱以降は衰退し、別院であった等持院(北区)に合併されています。

在原業平邸(ありわらのなりひらていあと) No.3



在原業平は平安初期の代表的な歌人で六歌仙の一人です。「伊勢物語」の主人公と言われています。父は平城天皇の皇子阿保親王、母は桓武天皇の皇女伊都内親王ですが、2歳の時、在原を名乗って臣籍に降りました。

島津製作所創業地(しまづせいさくしやうさうじやうのち) No.4



島津源蔵は仏具製造業者の次男として生まれ鍛冶工をしていましたが、1875年にこの地で島津製作所を設立し、理化学器械の製造販売を始めました。

角倉氏邸(すみのくらしでいあと) No.5



角倉了以は、国内諸河川の開発整備に従事し、1606年に大堰川・淀川・富土川を疏濬させました。1611年の地二条より鴨川の水を引き伏見に達する高瀬川を開削し、京都伏見間の水運を開通させました。

是より洛中碑(これよりらくちゆうひ) No.6



「是より洛中荷馬口付のもの乗へからず」と刻まれています。江戸時代、交通安全のため市街地に入る時に下馬を命じたものです。1695年に京都市街地を取り囲む30ヶ所に設置され、現在でも10本余り確認することができます。

高瀬川一之舟入(たかせがわいちのふないり) No.7



高瀬川は、江戸初期の豪商角倉了以・素庵父子によって開鑿され、京都の経済に重要な役割を果たしました。高瀬川の船入は、二条〜四条間に9カ所作られ、荷物の積み下ろしと船の方向転換の場所でした。